



都心アクセス道路現実味

開発局、新年度にも手続き

札幌都心部と札幌自動車道を結ぶ「都心アクセス道路」の整備構想で、開発局は新年度にも建設手続きの第1段階にあたる「計画段階評価」に進む。住民や専門家の意見を基に早ければ2年程度で建設の妥当性を判断する。道内では計画段階評価に入った後に中止になった例はなく、構想が現実味を帯びることになる。

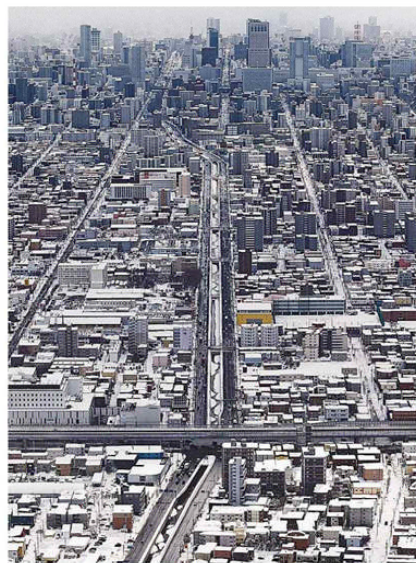
最短2年で妥当性判断

アクセス道路は、国道5号（創成川通）の札幌道札幌北インターチェンジ付近からJR札幌駅付近までの約4キロ間に高架や地下トンネルなどを整備する構想。開発局と道、札幌市は13日の検討会議で、アクセス道路が創成川通の混雑を緩和し、物流や観光、救急医療などで効果的として

「整備が必要」と結論付けた。計画段階評価は外部の意見を取り入れ、道路整備の必要性を詳しく検討する。公共事業の透明性向上のため2012年に導入された制度だ。開発局によると、評価入り後は1年程度かけて沿道住民のアンケートや道路を

利用する物流業者、医療関係者などへのヒアリングを行い、地域課題を把握。解決に適した道路のルートや構造の案を三つほど示す。住民や専門家、自治体などの意見を踏まえ、事業化に向けた最終案を決める。「評価終了まで2〜5年かかる（道路計画課）」という。現在は道横断道の端野（北見）―高野（オホーツク管内美幌町）、尾幌（釧路管内厚岸町）―糸魚沢

（同）の2区間で手続きが進む。開発局は「不必要と判断されれば中止もある」（同）とするが、過去に道内で中止になったことはない。開発局や道、札幌市の三者は、北海道新幹線が札幌に延伸する30年度末までに完成させたい意向だが、順調に進むかは未知数だ。市が1、2月に開いた整備構想を紹介するパネル展では、来場者から「費用対効果を考えるべきだ」「渋滞解消のため必要」など、さまざまな意見が上がった。三者の検討会では札幌市が市民の合意形成に向けて取り組むとした。創成川通の周辺住民らでつくる「都心アクセス道路問題を考える市民の会」の品川千賀子代表は「開発局や市は、市民が主体的に選択できるような情報を公開し、市民の意見を聞いてほしい」と話す。



南北に縦に延びる創成川通。都心アクセス道路整備が検討されている
＝2月19日（本社ヘリから）

2018年3月29日朝刊札幌市内版（記事は再編集しています）

①開発局、道、札幌市が「都心アクセス道路」を必要と結論付けた理由を書きなさい。

②記事中の傍線部分の内容は、「開発局の計画段階評価の流れ」を表した図のA～Gのどの段階に当たりますか。記号で答えなさい。